



# 営農タイムリー！



2023年7月10日発行

## 水稻のいもち病に注意 !!

京都府病害虫防除所より、**葉いもち**の発生について情報が発表されました。

- ・ 6月中旬に行った巡回調査の結果、葉いもちの発生は平年比多い発生でした。
- ・ アメダスデータを基にいもち病感染好適日を推定するシステムモデル (BLASTAM)によると、6月上旬以降、いもち病の感染好適日が府内各地で断続的に出現しています。
- ・ 6月29日発表の近畿地方1カ月予報では、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されており、今後病勢が進展しやすくなると考えられます。
- ・ 今後、移植時の箱施用薬剤の効果が低下することから、伝染源となるいもち病の発生が目立つ場合は、治療効果がある薬剤などで防除を徹底しましょう。

### ☆ 防除上の留意事項 ☆

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。
- (2) コシヒカリ、ヒノヒカリ、祝など発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発している水田や山間部の水田では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。
- (3) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤 (カスガマイシン剤: 商品名カスミン剤等、フェリムゾン・フサライド剤: 商品名 ブラシン剤等) で防除する。
- (4) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (5) 農薬の選択に当たっては、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。

# いもち病

わが国の稲作にとって、最も重要な病害でありイネの生育期間を通じて発生し、イネの各部を侵す。

**病徴と診断**：葉いもちの病斑は、大きさ、色、形状に変化があり7つの病斑型に分けられる。病斑は、褐点、白点、紫黒点から始まるが、褐点型病斑の多い時は本病まん延のおそれはほとんどない。白斑または浸潤型病斑が多く見られる時は、多数の胞子が形成されしかもイネの体質が本病に感受性であることを示すので本病まん延のおそれがあり、発生が多い場合はズリコミ症状を呈する。出穂期になると、葉いもち病斑上に形成された胞子が伝染源となり、穂首、枝梗に褐色の病斑を作り白穂となる。

## 伝染経路と

**発病条件**：病籾および被害ワラで越冬した病原菌が1次伝染源である。翌年、病斑上に分生胞子を形成、飛散し、イネに付着する。いもち病菌の分生胞子発芽には水滴(少なくとも96%以上の空気湿度で水膜)を必要とする。また、10～35℃の温度範囲で発芽する(25～28℃が発芽適温)。菌侵入後、湿度は菌の進展に影響しないが、温度は病斑発現までの期間の長短に影響する(24～25℃で5～6、26～28℃で4～5日)。

本病の発生しやすい気象条件を整理すると以下のようなになる。

- ① 本病菌の繁殖適温25～28℃が連続する時
- ② 降雨日数と降水回数が多い時
- ③ 湿度90%以上の日が連続する場合
- ④ 降雨が多いことと関連し、日照時間が短い日が連続する場合
- ⑤ 葉上で水滴が長時間保持される場合

## 防除のポイント：

- 塩水選を行い不良種籾を除去する。
- 箱育苗では覆土を十分にし籾が露出しないようにする。
- 発病苗を本田に持ち込まない。
- 抵抗性品種を栽培する。
- 薬剤の特性を理解し同一薬剤の連用をさけ、適正な使用をする。



葉いもち被害



いもち病被害(ずりこみ)



いもち病・急性病斑



いもち病・慢性病斑

# いもち病 主要防除薬剤

| 成分系                    | FRAC<br>コード        | 薬剤名                              | 希釈倍数、<br>使用量         | 使用時期 / 使用方法  | 本剤の<br>使用回数 | 成分別<br>総使用回数                             |
|------------------------|--------------------|----------------------------------|----------------------|--|-------------|--|
| オキシイミノアセトアミド<br>(殺菌剤)  | 11(C3)             | <b>オリブライト</b><br>1キロ粒剤           | 1kg/10a              | 出穂10日前まで ただし、収穫<br>45日前まで<br>-----<br>出穂10日前まで ただし、収穫<br>45日前まで<br>/ 無人ヘリコプターによる散布 | 1回          | 1回                                       |
|                        |                    | <b>オリブライト</b><br>250G <b>豆つぶ</b> | 250g/10a             | 出穂10日前まで ただし、収穫<br>45日前まで<br>-----<br>出穂10日前まで ただし、収穫<br>45日前まで<br>/ 無人ヘリコプターによる散布 | 1回          |  |
| ヘキサピラノシル抗<br>生物質 (殺菌剤) | 24(D3)             | <b>カスミン 液剤</b>                   | 1000倍<br>60~150L/10a | 穂揃期まで  | 2回以内        | 4回以内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内) |
|                        |                    |                                  | 30倍<br>3L/10a        | 穂揃期まで / 空中散布   |             |  |
|                        |                    |                                  | 8倍<br>800ml/10a      | 穂揃期まで / 無人航空機による散布   |             |  |
| ピリミジベンゾピドラゾン<br>(殺菌剤)  | U14(U)<br>16.1(I1) | <b>フラシンフロアブル</b>                 | 1000倍<br>60~150L/10a | 収穫7日前まで  | 2回以内        | 2回以内:3回以内                                |
|                        |                    |                                  | 8倍 800ml/10a         | 収穫7日前まで<br>/ 無人航空機による散布  |             |  |
|                        |                    |                                  | 30倍 3L/10a           | 収穫7日前まで / 空中散布   |             |  |
|                        |                    |                                  | 300倍 25L/10a         | 収穫7日前まで<br>/ 散布【ブームスプレーヤー】   |             |  |
|                        |                    | <b>フラシン粉剤DL</b>                  | 3~4kg/10a            | 収穫7日前まで  | 2回以内        |  |